

平成29年度 芸術科「書道I」シラバス	単位数	学年・学級	使用教科書・副教材等
	2単位	第1学年5・6, 8, 9, 10組 第3学年C選書道選択者	書道I(東京書籍)、 高校硬筆の学習(教育出版)

1 講座のねらい(目標)

書道の幅広い活動をとおして、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2 授業の内容と学習法

書道の学習においては、よく見る事が大切となる。自らの感性に基づき対象となる作品や古典の書美について直感的な把握を試みたい。

技法の習得は主として古典の臨書によるが、1枚1枚、1字1字について自分の解決すべき課題や問題点を見極めながら練習する習慣を身に付けたい。

作品制作については「今、自分は何を表現したいか」を大切に、詩文や用具などを積極的に選択していきたい。

3 学習計画及び評価方法等

〔1〕学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	評価のポイント
一学期	1 オリエンテーション	4	執筆法・用筆法や用具・用材について知り、書道の学習における基本的な事項を理解します。	①実技教科なので毎時間の提出作品をきちんとしましょう。 *提出前の途中経過、(試書・中間まとめ・添削を受けたもの等)を記録として提出します。 ②学習内容は必要に応じてプリント等に記録します。 ③用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度なども含めて総合的に評価します。
	2 篆刻の学習		落款印を作成します。 *自分の名前を刻します。	
	3 楷書の学習	5	漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれます。	
		6	基本的な点画や線質の表し方と、用筆・運筆の関係を、臨書学習により習得します。	
		7	これらの活動を総合し、各古典の特徴を把握し、半切作品として表現する方法を学びます。	
二学期	4 行書の学習	9	行書の特徴について理解します。 1学期同様、古典を基に学習し、書の多様な表現の可能性にふれます。	
	5 隸書の学習	10	行書の特徴について理解します。 古典を基に学習し、書の多様な表現の可能性にふれます。	
	6 漢字の書制作・鑑賞	12	これまで学習した漢字の古典を題材とし、習得した技法を生かして制作を行い、互いの作品を鑑賞しながら互評会を行う。	
三学期	7 仮名の学習	1	我が国独自の文字である仮名について、成立過程と字源について理解します。	
	8 漢字仮名交じりの書の学習	2	平仮名を中心とした上代様仮名の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得します。	
		3	これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名交じりの書の制作を行います。	
【評価方法】 1 提出作品、プリント等の記録状況、「学習のまとめ」の内容を中心に、用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度なども含めて総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で60%、ノートと「学習のまとめ」で10%、学習活動への参加の態度で30%の配分で行います。 3 提出作品については導入では、用筆・運筆を工夫して表現することができたか、また臨書については、対象となる古典の特徴を表現できたかという点が評価の規準となります。				